

- 個人理解の方法 一事例研究法—
- 自律訓練法の基礎
- ③ 講 師
 - 県立医科大学講師 金子 元久
 - 県立医科大学助教授 八島 祐子
 - 東京都立教育研究所教育相談部長 緑川 尚夫
- (3) 中・高教育相談講座
 - ① 期日・人員など
 - ア 第2次 前期 9月7日～9月10日
 - 後期 12月6日～12月9日
 - イ 中学校教員 21名
 - 高等学校教員 11名
 - ② 主な内容
 - 相談的教師 一問題行動の気づきと处置—
 - 感受性訓練 一感受性を高めるために—
 - 自我状態の分析 一自分を知り他人を知る手がかり—
 - Y・G性格検査の分析
 - 生徒指導における教育相談の役割
 - 樹木画テストの分析
 - ロール・プレーイング (役割演技)
 - 行動カウンセリング 一行動療法をふまえて—
 - カウンセリングテープ分析 一良い例・悪い例—
 - 個人理解の方法 一事例研究—
 - カウンセリング実習
 - 教育催眠 一催眠をどう生かすか—
 - ③ 講 師
 - 文教大学教授 宇留田 敬一
 - 川俣町立山木屋中学校長 佐藤 晃暢
 - 県教育センター担当所員
- (4) 学校カウンセラー養成講座
 - ① 期日・人員等
 - ア 第3次 前期 6月6日～6月9日
 - 中期 10月25日～10月28日
 - 後期 1月23日～1月26日
 - イ 中学校教員 19名
 - 高等学校教員 12名
 - ② 主な内容
 - カウンセリングテーマ研究 (1) (2) (3)
 - テストバッテリー
 - カウンセリングの諸理論
 - ロールプレーイングの実際
 - サンド・プレイ (箱庭療法) の実際
 - 家族カウンセリングの進め方
 - 思春期の精神医学
 - 行動療法の基礎と実際
 - 思春期の生理と心理
 - 自律訓練法とバイオ・フィードバック法の実際
 - カウンセリング実習
 - ③ 講 師
 - 筑波大学教授 原野 広太郎
 - 立教大学教授 平木 典子
 - 県立医科大学助教授 八島 祐子
 - 川俣町立山木屋中学校長 佐藤 晃暢

◦橋葉町立橋葉北小学校教頭

小川 兼太郎

第3節 教育研究

1 教育課程の経営に関する研究

(1) 研究の視点

本研究は、学校経営の中核としての教育課程の展開とその効果に焦点を当て、経営的発想に基づいて教育現場の実状を見直した場合、計画－実施－評価を一連の経営過程としてとらえるマネージメント・サイクルに問題があるとし、これが解決を目指して取り組んでいるものである。

最終年次の本年度は、過去二年間の成果と課題を踏まえ、教育現場の各教師に理解される理論の要約と整理、教育現場より開発を要請されている教育課程評価票(試案)の完成、教育現場の実践上の諸問題解決に役立つ資料・事例の収集と紹介、の三つを中心として研究を進める。

(2) 研究の内容

教育課程の経営に関する研究(3年研究)

(3) 研究の概要(第3年次)

① 理論編

- 学校経営と教育課程経営
- 教育課程経営の意義・機能
- 教育課程評価
- 教育課程の改善

② 実際編

- 教育課程評価の構想
- 教育課程評価票(試案)開発に関する試行調査
- 教育課程評価票(試案)の使用・活用法

③ 資料編

- 紀要「教育課程の経営に関する研究－第3年次」刊行

2 学習指導と評価に関する研究

(1) 研究の趣旨

新しい教育課程の実施に当たって、各学校では、教育を着実にしようとする考えのもとに、教育評価についての関心も高まり、評価の機能に着目した授業研究も多くなっている。評価を教育活動の一環としてとらえることは、一人一人の児童生徒の個性や能力を十分に理解し、より確かな授業を具現するうえから重要な課題である。

このような考えのもとに、児童生徒一人一人を伸ばす学習指導と評価はどうあればよいか、3年計画で研究に取り組むもので、本年度は第1年次で、評価についての理論研究と各学校における「指導と評価」に関して、アンケート方式による実態調査とその分析・考察を行った。

(2) 研究の内容

「学習指導と評価に関する研究」(第1年次)

(3) 研究の概要

教育評価に関する資料収集や理論研究を行い、併せて、今後の研究の方向づけのため、県下の小・中・高等学校における「指導と評価」についての実態調査をアンケート方式によって行い、その集計処理並びに分析と考察を行った。アンケートの領域は、授業前の評価、授業中の評価、授業